

(20) なばな

病害虫	防除法	参考事項							
根こぶ病	(耕種的・物理的防除) 1 発病歴のないほ場を選定する。 2 連作を避け、あぶらな科以外の作物と4～5年以上のサイクルで輪作する。 3 発病ほ場では抵抗性品種を作付ける。 4 遊走子が根に感染するためには水が必要であるため、ほ場の排水を良くする。 5 水稲後作では高さ20～30cmの高うねとし、うね内の停滞水をなくす。 6 地温が18℃以上で発病するため、は種時期や定植時期を調整する。 7 pH7.2以上では発病が抑制されるため、土壌pHを矯正する。 8 罹病残さから休眠胞子が拡散するため、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。 9 発病ほ場から耕うん機等を移動する際には、機械に付着した休眠胞子を取り除くため、土をよく払い落とし、丁寧に水洗する。 10 ほ場内のあぶらな科雑草も伝染源となるため、除草を徹底する。 11 地床育苗する野菜では、4～5年間あぶらな科作物を栽培していない、排水条件の良い場所に、は種床を設置する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤で土壌消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 2 下記薬剤のいずれかで防除する。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th></tr></thead><tbody><tr><td>オラクル粉剤</td></tr><tr><td>オラクル顆粒水和剤</td></tr><tr><td>ネビジン粉剤</td></tr><tr><td>ネビリュウ</td></tr><tr><td>フロンサイド粉剤</td></tr><tr><td>ランマンフロアブル</td></tr></tbody></table>	薬剤名	オラクル粉剤	オラクル顆粒水和剤	ネビジン粉剤	ネビリュウ	フロンサイド粉剤	ランマンフロアブル	○ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項(根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病防除)を参照する。 ○ ラベル等で各薬剤の登録内容をよく確認してから使用すること。特に、複数の剤型、使用時期、使用方法、使用量で登録のある薬剤は、総使用回数に留意する。
薬剤名									
オラクル粉剤									
オラクル顆粒水和剤									
ネビジン粉剤									
ネビリュウ									
フロンサイド粉剤									
ランマンフロアブル									
白斑病、黒斑病、べと病	(薬剤防除) 農薬登録情報【白斑病】・【黒斑病】・【べと病】 1 発病初期にダコニール1000を散布する。								
白さび病	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発病初期に下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><thead><tr><th>薬剤名</th></tr></thead><tbody><tr><td>アリエッティ水和剤</td></tr><tr><td>ストロビーフロアブル</td></tr><tr><td>ダコニール1000</td></tr><tr><td>ピシロックフロアブル</td></tr><tr><td>ヨネボン水和剤</td></tr><tr><td>ランマンフロアブル</td></tr></tbody></table>	薬剤名	アリエッティ水和剤	ストロビーフロアブル	ダコニール1000	ピシロックフロアブル	ヨネボン水和剤	ランマンフロアブル	
薬剤名									
アリエッティ水和剤									
ストロビーフロアブル									
ダコニール1000									
ピシロックフロアブル									
ヨネボン水和剤									
ランマンフロアブル									
黒腐病	(耕種的・物理的防除) 1 あぶらな科作物の連作を避ける。 2 密植しない。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 カスミンボルドー/銅ペーパーシン水和剤を発病前から散布する。								

病害虫	防除法	参考事項							
軟腐病	(耕種的・物理的防除) 1 3～4年間イネ科、まめ科の作物を作付ける。 2 降雨直後に農作業をしない。 3 病株は見つけ次第取り除く。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 微生物殺菌剤 <table><tr><td>薬剤名</td></tr><tr><td>マスタピース水和剤</td></tr></table> 2 発病が予想されるときは下記薬剤のいずれかを7～10日おきに散布する。 <table><tr><td>薬剤名</td></tr><tr><td>Zボルドー</td></tr><tr><td>カスミン液剤</td></tr><tr><td>コサイド3000</td></tr><tr><td>ヨネボン水和剤</td></tr></table> 3 根や地際を害する害虫(ナメクジなど)を防除しておく(共通防除の章の共通病害虫の防除「ナメクジ・カタツムリの防除」を参照)。	薬剤名	マスタピース水和剤	薬剤名	Zボルドー	カスミン液剤	コサイド3000	ヨネボン水和剤	
薬剤名									
マスタピース水和剤									
薬剤名									
Zボルドー									
カスミン液剤									
コサイド3000									
ヨネボン水和剤									
花腐細菌病	(耕種的・物理的防除) 1 多肥・密植を避ける。 2 発病花蕾は早めに除去する。 3 12月中旬以降に収穫する作型に変える。	○ 11月中旬～12月上旬に収穫する作型で、降雨が多いと特に発生しやすい。輸送中に腐敗する場合があるため雨天時の収穫は避け、収穫後はむれないように低温で保管する。							
モザイク病	・ アブラムシ類を防除する(下記)。								

病害虫	防除法	参考事項
アブラムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物農薬	○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項 1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 2 アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。
	薬剤名(天敵名)	
	アフィパール (コレマンアブラバチ)	
	コレトップ (コレマンアブラバチ)	
	チャバラ (チャバラアブラコバチ)	
	デントップ (ナミテントウ)	
	カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	
	ゴッツA (ペキロマイセス テヌイペス)	
	ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)	
	2 気門封鎖剤	
	薬剤名	
	エコビタ液剤	
	オレート液剤	
	サフオイル乳剤	
	サンクリスタル乳剤	
	粘着くん液剤	
	フーモン	
	ムシラップ	
	3 は種時又は定植時に、下記薬剤のいずれかを処理する。	
	薬剤名	
	オルトラン粒剤	
	スタークル/アルバリン粒剤	
	ダントツ粒剤	
	4 発生初期に下記薬剤のいずれかを散布する。	
	薬剤名	
	アドマイヤー顆粒水和剤	
	オレート液剤	
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	
	パダンSG水溶剤	
	モスピラン顆粒水溶剤	
カブラハバチ	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発生を認めたら、下記薬剤を散布する。	
	薬剤名	
	モスピラン顆粒水溶剤	

病害虫	防除法	参考事項
キスジノミハムシ	(薬剤防除) 農薬登録情報	
	1 は種前に、 <u>下記薬剤</u> を処理する。	
	<u>薬剤名</u>	
	フォース粒剤	
	2 発生を見たら、 <u>下記薬剤</u> のいずれかを散布する。	
	<u>薬剤名</u>	
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	
	モスピラン顆粒水溶剤	

コナガ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。本虫に対しては、1mm×1mmの目合いで効果が高い。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 4 交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬やBT剤（下表）を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 結球野菜では、結球前の防除を徹底する。
- 5 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 生育初期の被害を軽減するため、は種時に寒冷紗、不織布でトンネルがけする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤

薬剤名

コナガコン

コナガコンープラス

コンフューザーV

- 2 生物農薬

薬剤名(天敵名)

ボタニガードES

(ボーベリア・バシアーナ)

- 3 BT剤

薬剤名

エスマルクDF

エコマスターBT

クオークフロアブル

サブリーナフロアブル

ジャックポット顆粒水和剤

チューンアップ顆粒水和剤

デルフィン顆粒水和剤

トアローフロアブルCT

トアロー水和剤CT

フローバックDF

- 4 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。

コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数群でのローテーション散布を行う。なお、既に抵抗性の発達している薬剤も認められるが、その程度は地域により差があるため、実際の使用状況から推測して薬剤を選択する。

薬剤名

アディオン乳剤

アフーム乳剤

ディアナSC

バダンSG水溶剤

病害虫	防除法	参考事項													
ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発生初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td></tr><tr><td>アフーム乳剤</td></tr></table>	薬剤名	チューンアップ顆粒水和剤	アフーム乳剤											
薬剤名															
チューンアップ顆粒水和剤															
アフーム乳剤															
ハスモンヨトウ	・ 共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項を参照する。 (予防に関する措置) 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 3 交信かく乱剤(下表)を活用した防除を行う。 (判断、防除に関する措置) 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 4 BT剤(下表)を活用した防除を行う。 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。 6 作物残さを適切に処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 交信かく乱剤 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ヨトウコンーH</td></tr><tr><td>コンフューザーV</td></tr></table> 2 BT剤 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>エコマスターBT</td></tr><tr><td>クオークフロアブル</td></tr><tr><td>サブリナフロアブル</td></tr><tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td></tr><tr><td>フローバックDF</td></tr></table> 3 発生初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アフーム乳剤</td></tr><tr><td>コテツフロアブル</td></tr><tr><td>ディアナSC</td></tr></table>	薬剤名	ヨトウコンーH	コンフューザーV	薬剤名	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリナフロアブル	デルフィン顆粒水和剤	フローバックDF	薬剤名	アフーム乳剤	コテツフロアブル	ディアナSC	
薬剤名															
ヨトウコンーH															
コンフューザーV															
薬剤名															
エコマスターBT															
クオークフロアブル															
サブリナフロアブル															
デルフィン顆粒水和剤															
フローバックDF															
薬剤名															
アフーム乳剤															
コテツフロアブル															
ディアナSC															

病害虫	防除法	参考事項																									
ヨトウムシ類	ヨトウムシ (予防に関する措置) 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫 ネットによる被覆や防蛾(が)灯 (黄色灯) の夜間点灯を行う。 3 種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 (判断、防除に関する措置) 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。 2 BT 剤 (下表) を活用した防除を行う。 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 4 結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。 5 物残さを適切に処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 【ヨトウムシ】・【ヨトウガ】 1 BT 剤 <table><tr><th>薬剤名</th><th>備考</th></tr><tr><td>エスマルク D F</td><td></td></tr><tr><td>エコマスター B T</td><td></td></tr><tr><td>クオークフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>サブリーナフロアブル</td><td></td></tr><tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td><td></td></tr><tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td><td>シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウでの登録</td></tr><tr><td>トアロー水和剤 C T</td><td></td></tr><tr><td>フローバック D F</td><td></td></tr></table> 2 下記薬剤を処理する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>カルホス粉剤</td></tr></table> 3 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アフーム乳剤</td></tr><tr><td>フローバック D F</td></tr><tr><td>カスケード乳剤</td></tr><tr><td>スカウトフロアブル</td></tr></table>	薬剤名	備考	エスマルク D F		エコマスター B T		クオークフロアブル		サブリーナフロアブル		チューンアップ顆粒水和剤		デルフィン顆粒水和剤	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウでの登録	トアロー水和剤 C T		フローバック D F		薬剤名	カルホス粉剤	薬剤名	アフーム乳剤	フローバック D F	カスケード乳剤	スカウトフロアブル	○ アファーム、スカウトはヨトウムシ、カスケードはヨトウムシ類での登録である。
薬剤名	備考																										
エスマルク D F																											
エコマスター B T																											
クオークフロアブル																											
サブリーナフロアブル																											
チューンアップ顆粒水和剤																											
デルフィン顆粒水和剤	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウでの登録																										
トアロー水和剤 C T																											
フローバック D F																											
薬剤名																											
カルホス粉剤																											
薬剤名																											
アフーム乳剤																											
フローバック D F																											
カスケード乳剤																											
スカウトフロアブル																											
ネキリムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 被害株周辺の幼虫を捕殺する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ネキリエース K /カルモック</td></tr><tr><td>ガードベイト A</td></tr><tr><td>ダイアジノン粒剤 5</td></tr></table>	薬剤名	ネキリエース K /カルモック	ガードベイト A	ダイアジノン粒剤 5																						
薬剤名																											
ネキリエース K /カルモック																											
ガードベイト A																											
ダイアジノン粒剤 5																											

○ アファーム、スカウトはヨトウムシ、カスケードはヨトウムシ類での登録である。